

請願書



石垣島におけるさとうきび生産振興について

令和7年2月18日

石垣市議会議長 我喜屋 隆次 様

石垣市字大浜 391 番地

石垣市さとうきび生産組合

組合長 伊敷 繁光

ほか 11 名

紹介議員

氏名 友寄 永三

石垣市議会

議長 我喜屋 隆次 様

石垣島におけるさとうきびの生産振興に関する請願

石垣市議会におかれましては、日頃から石垣市のさとうきび生産及び製糖業の振興に格別のご配慮・ご指導を賜り厚くお礼申しあげます。

ご承知のとおり、さとうきび産業は、沖縄県の基幹産業として農家・地域経済の支柱であり、関連産業への経済波及効果も含め大変重要ものと位置づけられております。

しかしながら、農業生産の現場では生産農家の高齢化、担い手不足、生産資材の価格高騰、製糖工場の老朽化など課題が山積しております。

そのことを踏まえ、石垣市さとうきび生産組合といたしまして、さとうきびの持続的生産のため山積する課題解決に向け早急に取り組む所存であります。

つきましては、課題となる別紙の 7 項目について石垣島におけるさとうきびの生産振興に関する請願とさせていただきます。

石垣島におけるさとうきび生産の現状と課題

現状

石垣市のさとうきび生産量は、令和 5/6 年期中において 68,165 トンで沖縄県全体（606,53 トン）の 11.2%を占める産地であり、生産農家戸数 974 戸、収穫面積は 1,235ha となっている。

現在、65 歳以上のさとうきび農家戸数が全さとうきび農家数に占める割合は 5 割以上を占めており、生産農家の高齢化、担い手不足、兼業化などを背景として労働力不足が生じる中、農作業委託の割合が年々増加傾向にあるが、受託組織の人材不足による作業の遅れ、物価高騰の影響による作業委託費の増加や、肥料・農薬等の生産資材価格の高止まりにより生産費が上昇し、所得の確保が困難になりつつあり、さとうきび生産の衰退が懸念されています。

これら、さとうきび産業を取巻く環境は厳しく、山積する課題解決に向け地域の関係機関が一体となり取り組むことが重要であります。

課題

1. 受託組織の育成強化について

石垣市でのさとうきび受託組織は主に JA 利用課とさとうきびに特化した組織である（一財）石垣市農業開発組合と一部個人の受託者があり、さとうきび畑の耕起、植付け、肥培管理、ハーベスター収穫作業受託を担っているが、人材不足。作業オペレーター不足により、生産農家からの作業委託申込みに対し対応が追いついていない状況にあります。

特にキビの植付け作業においては、顕著であり、なかでも夏植期における猛暑日のなかでの手刈りによる苗取り作業は熱中症等の危険を伴うことから人員確保が難しく、植付け作業が進まず、適期（7 月～9 月）植付け作業が行えない状況にあり夏植の減少要因となっている。今後、生産農家の高齢化や兼業化が進む中、更に農作業委託割合が増加する予想されることから、さとうきびに特化した農業開発組合の機能強化を図ると共に地域の中核的農家を農業生産法人等へ誘導し、農業機械等の補助事業での導入支援を行い、受委託体制の整備を図ることでさとうきびの生産の持続・増産に繋がります。また、生産現場の労働力不足を補うため、近年、注目されているスマート農業技術をさとうきび栽培体系への導入に向けたご支援をお願いいたします。

2. 植付け作業に係る省力化と作業効率の向上について

石垣市においては全型プランターによる植付けが主であり、受託組織の人材不足と猛暑期の手刈りによる採苗は大変厳しい作業で苗確保が困難となり新植面積の減小が問題となっております。ビレットプランターでの植付け作業は従来の全型プランター植付けと比べ作業時間が半減することが実証され大幅な省力化となり、ビレットプランターの活用は必要不可欠であります。現状での導入台数 8 台（JA 2 台・開発組合 2 台・個人 4 台）と少なく、補助事業を活用したビレットプランターと苗取り用の小型ハーベスターの導入を計画的に進め地域に普及させることで植付け作業の省力化と効率化が図られ、新植え面積の増加が期待されます。今後ともさとうきび生産の持続と増産に向けたご支援をお願いいたします。

3. ハーベスターの老朽化について

現在石垣市において稼働しているハーベスターはJA利用課保有 6 台（中型 5 台・小型 1 台）で耐用年数 7 年超え機材 5 台、石垣市農業開発組合保有 19 台（大型 1 台・中型 18 台）で、耐用年数 7 年超え機材 13 台と老朽化による稼働率低下が懸念される。JA・開発組合 2 社受託組織での保有台数 25 台の内、耐用年数 7 年超え 18 台で、保有台数の約 72%となっており、内、3 台が 14 年以上前の導入になっている。14 年経過すると（部品供給打ち切り、代替え）となる。ハーベスターは大手機械メーカーも撤退しており、受注生産のため単価が高く、発注から納入まで約 2 年程度の時間を要する。基幹作目であるさとうきびの生産向上を図るためにハーベスターは必要不可欠であり、計画的な導入、更新が必要である。（老朽化の課題に直面）している。JA 及び農業開発組合を中心に収穫作業を受託し機械刈収穫実績は前期 90.3%から今期 5/6 年期は 91.7%に増加している。今後も生産農家の高齢化や兼業化は更に進み、機械刈収穫作業の委託は増加が予想されることから、補助事業を活用したハーベスター導入に向けたご支援をお願いいたします。

4. 石垣島製糖工場の早期建設について

石垣島製糖工場(株)は 1961 年の工場建設から 63 年が経過し、施設の老朽化が著しく、機械の処理能力の低下による操業の長期化や天候不良による収穫遅れ、品質の低下や、次期作の株出管理、春植作業の遅れが生じるなど、農業経営に

支障をきたしている。現状での工場設備使用では生産農家は、安心してさとうきび生産の持続に不安を抱いております。

さとうきびは、本県の基幹作物として農家の所得と地域経済において重要な役割を担っており、石垣市さとうきび生産組合は引続き、さとうきび産業の維持・発展のため、石垣島製糖工場の早期立て替えの要請活動を行って参りますので、お力添えとご支援を賜りますようお願いいたします。

5. 有害鳥獣の被害増大に対する対策について

八重山地区においては、イノシシの侵入による農産物への被害が年々、拡大している。特に北西部地域については被害が著しく、近年では被害が島内全島に拡大してきている。昨年、12月15日に沖縄営バンナ公園で予定していた銃器や猟犬による有害鳥獣駆除が許可手続に不備があるとして中止となり、被害軽減を期待した近隣農家から落胆の声が多数JAに寄せられている。再度、県との調整を進めていただき早期駆除の実施と、併せて、令和3年度より石垣市が鳥獣被害防止総合対策交付金を活用したイノシシ侵入防止用のワイヤーメッシュ柵を設置した圃場において絶大な効果が発揮され被害軽減が図られていることから、今後も鳥獣被害防止総合対策事業の予算枠を確保していただきイノシシ侵入防護柵（ワイヤーメッシュ・電気柵・箱わな等）の設置に対するご支援を賜りますようお願いいたします。

6. 土づくり対策について

生産農家は、堆肥を活用した土づくりの重要性を十分理解しているが、石垣市堆肥センターの堆肥価格がトン当たり17,000円と高騰し、購入費や散布労力の負担が大きく、堆肥を投入する農家が少ないのが現状であり、散布労力の軽減に向けたペレットへの取組みが急務である。また、堆肥散布機マニアスプレッターの台数不足と散布受託組織の整備遅れ等により堆肥を活用した土づくりが進まない現状がある。近年、みどりの食料システム戦略に基づいた化学肥料使用から有機質資材への転換に向けた地域資源の活用（堆肥・有機質資材）等の取組が推進されています。石垣内には家畜の排泄物による豊富な資源があるがさとうきび畑への投入が少なく、堆肥センターの活用率の低下が課題であることから、みどりの食料システム戦略に基づく環境負荷低減取組を支援する交付金を活用した堆肥ペレット製造機械・堆肥散布機・堆肥筋撒き機の導入・堆肥価格の低減・堆肥散布受託組織の育成に向けた取組みが必要であります。

農業の基礎である地力増進（堆肥、有機質資材、緑肥等）を活用しての土づ

くりを推進し、さとうきび増産に向け取組んで参りますのでご支援をお願いいたします。

7. 耕作放棄地の有効利用について

生産農家の高齢化、担い手不足による農業従事者の減少による耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されます。更に、昨今の物価高騰の影響による農作業受託料金の増加や、肥料、農薬等の生産資材価格の高止まりによる生産費の上昇から農業経営の悪化が顕在化している中、地域の農業者が守り続けてきた農地を含め、これからの地域農業をどのように維持・発展していくか、また次の世代へどのように引き継いでいくのか、地域関係者が一体となった取組が必要であることから課題解決に向けた意見交換をよろしくお願いいたします。

1. ビレットプランターとは

ビレットプランターは、ハーベスターで収穫した細断茎(ビレット)をプランターのホッパに投入して直接ほ場に植付ける機械です。日本へは2005年頃にオーストラリア製のビレットプランターの導入が始まりました。本事業で使用した機種を紹介します。詳細情報は機械メーカーに問合わせください。

松元機工(株)製



型式	MBP3000
全長	2000mm
高さ	2720mm
幅	2130mm
重量	660kg
苗積載量	300kg
トラクター適応馬力	60ps

ヤビク農機具(株)製



型式	YS-21-5P
全長	2300mm
高さ	2500mm
幅	2200mm
重量	750kg
苗積載量	500kg
トラクター適応馬力	50～80ps

2. ビレットプランターによる植付け

2-1. 植付けの全体像



採苗圃場での
ハーベスターによる採苗

ハーベスター運転手: 1名
採苗補助者: (1名)

採苗した苗をトラックなどに
積載して植付け圃場へ移動

トラック運転手
(兼クレーン操作者): 1名



クレーンによるプランターへの
苗積み込み作業

トラック運転手(兼クレーン操作者): 1名
積み込み補助者: (1名)
トラクター運転手: 1名



ビレットプランター植付け

トラクター運転手: 1名
プランター操作者: (1名)



※: ()内人数は、スムーズな作業に必要な人数。
必要人数は熟練度などによっても変化します。

2-3. 苗の準備

1) 苗畑の確保と適期の採苗

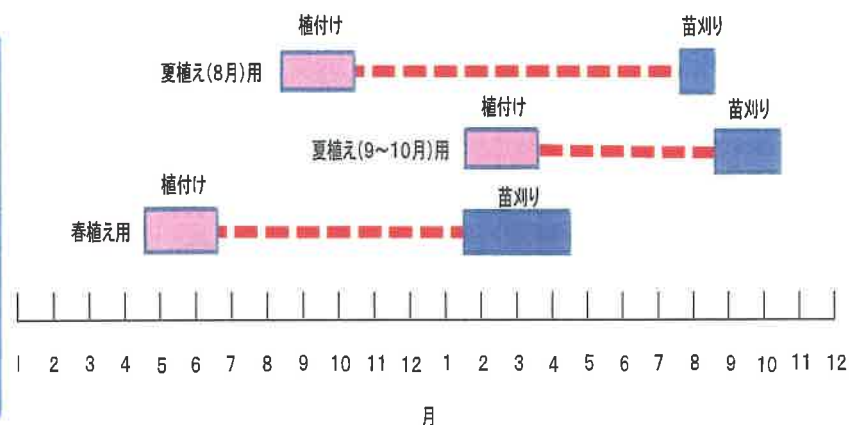
- さとうきびの栽培方法に準じて、ハーベスター採苗用のさとうきびを栽培します。
- ハーベスターで刈取が容易な、老化芽子の少ない健全で直立した茎が理想です。

品種や栽培地域によりますが、一般的には、

- 夏(8月)植え用苗→前年9～10月植え、
- 夏(9～10月)植え用苗→同年2～3月植え、
- 春(2～4月)植え用苗→前年5～6月が適期植付けの苗です。



夏植え採苗圃



採苗期からみた植付け時期
(沖縄本島の例)

トピックス① 台風襲来の被害を受けたら

台風に遭遇した蔗茎は折損が多く見られ、収穫茎としては収量、品質低下が懸念されます。一方、台風襲来後、芽が動き出す前にハーベスターで刈り取り、苗としてビレット植付けに活用することは可能です。



側枝が多発生した蔗茎



蔗苗刈り取り後の状況
(2018年台風25号襲来後)

2) 必要な苗量



500kg袋に約300kg詰めた苗を3～4袋/10a用意する

久米島で実施したビレットプランター植付けによる苗投入量

植付け	苗投入量
ビレットプランター	815～1031kg/10a
全茎プランター	612kg/10a
比率	1.3～1.7

2018年、品種は「Ni27」、ビレットプランターはヤビク農機具(株)製YS-21-5Pを使用

苗はハーベスターにより、蔗茎全体が裁断されたものを利用します。
全茎プランターと同程度の発芽数を確保するために
苗量は、多く必要になります。

芽の状態が良好で上から下まで全て使えて、ハーベスター採苗がしやすいように直立した蔗茎を利用しましょう。また、健全芽が多くあることが望ましいです。

2-4. 植付け

1) 作業時間の大幅短縮

ビレットプランターだと作業時間はほぼ半減します。

ハーベスター採苗



手刈り採苗



ビレットプランター植付け



全茎プランター植付け



久米島の夏植えにおける植付けの作業時間(分/10a)

	ビレットプランター	全茎プランター
採苗	42分	158分
植付け	51分	110分
合計	93分	268分

ビレットプランターはヤビク農機具(株)製YS-21-5Pを使用

- ・ビレットプランター7圃場、全茎プランター2圃場の平均値
- ・各作業は2名での実施を想定
- ・採苗は、ビレットプランターはハーベスター、全茎プランターは手刈りでおこなった。
- ・手刈時間は10a植付けに必要な苗量(600kg)の刈り取り時間。
- ・久米島におけるビレットプランター導入初年度のデータ

2)ビレットプランター植付けの特徴

苗は多めに植え、補植をなくして省力化します。
栽培管理のため、畦幅に余裕(140cm程度)が必要となります。

苗を多めに
投入するため、
植え溝の幅が
大きくなる

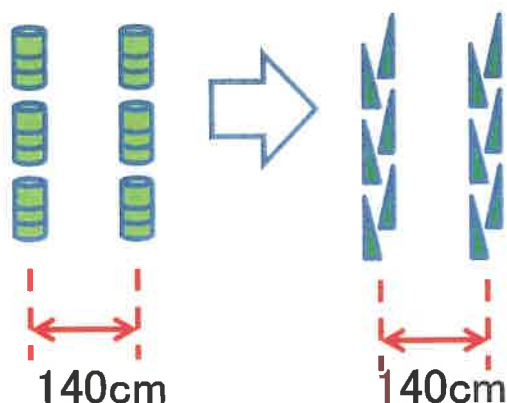


発芽数と茎数が
増え、植え溝の
幅は更に広がる



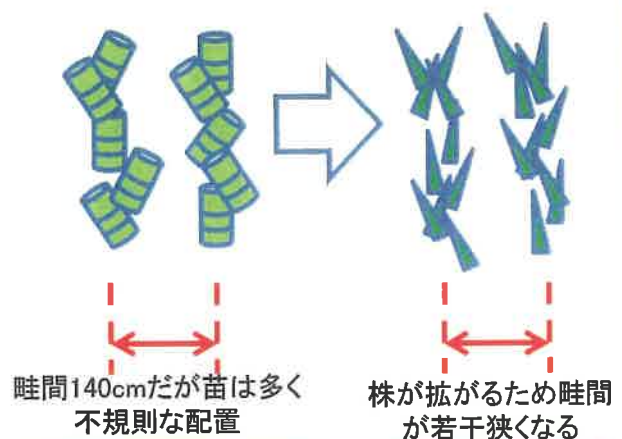
株元が広がり、
畦間は狭くなる

従来の植付け (手植え、全茎式)



初期生育写真(手植え)

ビレットプランター植付け



初期生育写真(ビレット)

乗用型トラクターによる栽培管理、ハーベスター収穫を想定すると
ロータリー畦幅110~120cmの栽培管理体系となるため

畦幅は140cm程度が望ましい